

自己評価会議実施日 2017年2月23日

学校関係者評価委員会実施日2017年3月24日

1. 学校の教育目標

明るい子： 家族の愛や多くの恵みの中で、生かされる喜びをもって明るく生きる子ども
 思いやりのある子： 違いを認めて共にいたわり、励まし合うことのできる子ども
 たくましい子： 心も体も健やかに成長し、いつも元気で頑張れる気持ちを持てる子ども

2. 本年度の重要目標

食育活動

①食育で目指す子ども像の明確化 ②計画の作成 ③食育の意義と必要性の共有 ④食育についての学習
 ⑤給食担当者との協力 ⑥家庭と連携した取り組み ⑦地域と連携した取り組み ⑧実践の記録と評価

3. 評価項目とそれらの達成及び取り組み状況

評価項目	結果	理由・考察
I 保育者としての能力や良識、適正	B	1.専門家としての能力、良識、義務： 初任者とベテランの評価が分かれている。専門知識と技能を身につくよう研修することが求められる。園内研修が必要。良識、マナーについては標準的レベルである。 2.組織の一員としての在り方： 自分の意見を明確に述べるのが不足している。 3.保育者として保育の楽しみ、喜び： 仕事に対しての楽しさ、喜びは大いに感じている。 4.周りを感じ取れる感性： 幼稚園以外のことに、特に地域の事柄に関心を寄せていかなければならない。
II 保護者への対応	B	1.情報の発信と受信： こどもの様子、自分の考え方等報告、発信がより多く求められる。コミュニケーションを積極的にとる工夫（現場視察、写真）が必要である。 2.協力と支援： 標準的レベル 3.守秘義務の遵守： 上位レベル 4.対応上のマナー、良識： マナー、良識は心得ているが、態度言葉使いに丁寧さが不足している。 5.クレームにに対する対処の仕方： 教職員全体で理解し対処しているが、小事と自己解釈してしまい報告、相談が遅れる場合がある。
食育活動	A	重点目標に6項目を設定して達成度合いを評価した。（別紙） 食事のマナー、食事への感謝、嫌いな物を無くすことに重点を置き完全給食をしていることから、例年どうりの評価が得られた。

4. 総合的な評価結果

結果	理由
B	昨年に引き続いて、評価項目を重点的に2項目にしぼり評価をしたが、達成されていない部分もまだ多い。食育を通して嫌いなものが減少していること、マナーは向上している効果は大きい。

5. 今後の課題

自己研鑽に励み保育者としての質の向上を図らねばならない。保護者との密接な関係が重要なことであることを認識すること。重要目標の食育活動はこども園に移行することもあり、来年度も取り組んで、評価項目を再検討し、発育状況が分かるものにしていきたい。

6. 学校関係者の評価

・食育活動を重点目標に入れて、取り組むことを続けて欲しい。教育方針や目標が理解されていること、子どもが園生活を楽しくしていることは、評価される。・保育者は研修会等に積極的に参加するべきである。
 ・保護者とのコミュニケーションを密にする工夫をして欲しい。
 ・不審者等に対する安全面において、具体的に対策を講じたことはよかった。

7. (3)(4)の評価結果基準

A	十分達成されている	C	取り組んでいるが達成されていない
B	おおむね達成されている	D	取り組みが不十分である